

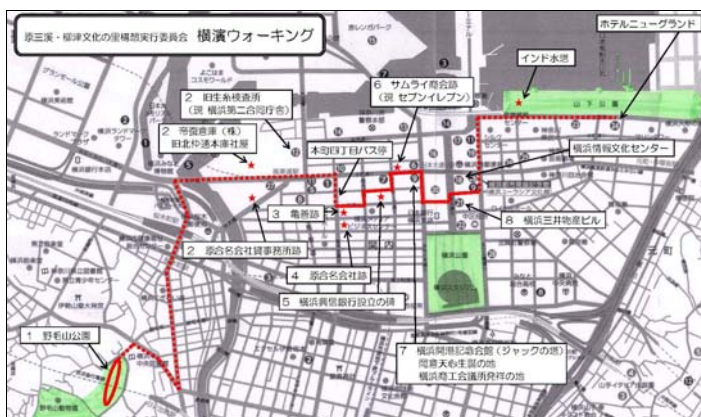
原三溪翁の故郷・岐阜から 「柳津文化の里」の一行を迎えました

岐阜の「原三溪・柳津文化の里構想実行委員会」の一行が一泊二日の日程で横浜を訪れ、原三溪翁ゆかりの地を巡りました。原三溪市民研究会は横浜ウォーキングや三溪園の案内を務め、岐阜の皆様と2011年の岐阜ツアー以来の旧交を温めました。今号は案内役を務めた野中さん、福田さん、そして柳津側の企画者であり原三溪市民研究会の岐阜支部長も務める尾関さんからご寄稿いただきました。

横浜ウォーキング

7月28日（日）14:00～15:00

野毛山公園 → 原合名会社貸事務所跡・帝蚕倉庫・旧生糸検査所 → 生糸売込問屋亀善跡 → 原合名会社跡 → サムライ商会跡 → 旧町会所跡・岡倉天心生誕の碑・横浜商工会議所跡 → 横浜三井物産ビル



横浜ウォーキングの見学コース



野毛山公園にはかつて原家や茂木家の屋敷がありました

「おもてなし」の心

2013年7月28日（日）、横浜ウォーキングと題して、ほぼ400km離れた岐阜、原三溪翁の出身地である「柳津文化の里」の40数名の皆様をお迎えすべく私たち「研究会」のメンバーで、原三溪ゆかりの場所のご案内を致しました。

観光旅行とは異なり、極めて専門的な旅ゆえに昔日の面影が少ない場所、真夏を迎えたコンクリートジャングルの街中を如何に短時間で効率的にご案内するか、事前に踏査するなどの準備はしておりましたが、あれもこれもお伝えしたい、初めてお訪ね戴いた由緒の地や場所に充分なご説明が出来たかと皆で自問自答をしています。市街地での大型観光バスの通行指定や駐車制限などと行動時間も考慮しながら、現在の横浜らしい所はご案内出来なかった点についてはご容赦戴きました。しかしながら、私なりに「おもてなし」とは…をあらためて学ばせて戴いた良い機会でした。それは観光バスのドライバーとガイドさんの心がけです。道路事情を知っている私が、市内のナビゲーターをさせて戴いた、極めて短時間のことではありましたが、このバス会社の姿勢かも知れませんが、事前に横浜の歴史的な資料（帝蚕倉庫、開港記念会館、三溪園資料なども含み）、現在の横浜市の

特徴、最新の話題情報（世界一高額なスポーツカー、日産のGTR 1500万円の生産拠点は横浜、大黒）などの資料を地図上に貼付したり、ご自分の手帳に添付してあったり、事前に相当の収集と勉強をされて来たのだとわかりました。バスの車内で、こうした内容のお話が出されたかは知りませんが、大切な「お客様」のご案内には見えないところや影で、[おもてなし]の努力をされていることに感涙の思いがしました。単に運転だけ、会社からのあてがいぶちでのガイドではないことに心から敬意を感じた次第です。私たちも観光ではない特定の場所へのご案内や狭い街中での駐車などは自らの学びにもなりました。岐阜との交流はこの数年で極めて、親しくさせて戴きましたが、「原三溪（青木富太郎）」が紡いでくれた「縁」でもあると思えます。「原三溪翁伝」によってさらに究めることの多くが、さらなる親交の輪を拡げて行くような気がしてなりません。「三溪に学び、三溪に学ぶ」共々に健闘を称え合いながら、後世への使命感を育み、有意義な活動をすすめて行きたいものです。

（8月11日、野中宏泰）

三溪園見学会

7月29日（月）9:00～12:30

三溪園の協力を得て鶴翔閣、白雲邸、臨春閣の内部を見学し、その後園内を散策しました。

雨の景色も良し

二日目の7月29日(月)は三溪園の見学会です。

あいにくの雨でしたがそれも良し、三溪翁の色々な“想い”が凝縮されている5万3千坪の庭を楽しんで頂きました。園内に入ると最初に目に入るのが京都府南部加茂町の燈明寺から移築された三重塔です。大池の向こうの360度緑に囲まれた小高い所にたたずみ、神戸日吉神社の三重塔のようにも見えます。右の池では今が盛りと原始蓮が咲いていました。

三溪翁が34歳の時に建て41歳の時から住居とした「鶴翔閣」は、三溪園参事の川幡留司さんが建物内部を案内されました。290㎡の茅葺平屋でバリアフリー、客間棟では一時、横山大観、下村観山、前田青邨、安田靫彦などが日本画を描いていました。

内苑には重要文化財6棟を含む移築建造物がありますが、すべて建物内部の坐った位置から三重塔が見えるように三溪翁は配置されました。52歳の時に隠居所として建てた「白雲邸」では、原三溪市民研究会廣島会長が建物内部を案内されました。素朴ではあるが建築材料にこだわった建物、そして三溪翁自筆の扁額「白雲長随君」（白雲即ち自分はとこしえに君（天皇？奥様？空？社会情勢？）にしたがう）が掛けられています。20年近くここで過ごされ、最期はこの部屋で雪舟の描いた「四季山水図」を見ながら亡くなられたそうです。大正時代倒産寸前の銀行を助けるため受け皿銀行を設立したこと、関東大震災後すぐに横浜市の復興会長に推挙されたこと等を紹介され、出し



「白雲長随君」の額を解説する福田さん（右から二人目）

やはりでなく皆からは是非とお願いされる人徳があった三溪翁の人物像をお話されました。

「臨春閣」は、紀州徳川家初代大名頼宣の夏の別荘でその後大阪にあったものを移築しました。購入後どこにどのように配置するかを熟考し、9年後に建築開始、11年後の49歳の時に移築完了し長男の結婚披露宴が催されました。川幡さんが建物内部を案内されましたが、狩野派の絵師による襖絵障壁画と、彫刻や楽器を飾っていた欄間に特徴があります。そして第三屋2階「村雨の間」から見える雨に煙る三重塔の眺望は圧巻だったと思います。

柳津への郷愁をあちらこちらに散りばめ、絵心のある三溪翁がこの土地をキャンパスに見立て、自らのこだわりで造り上げた三次元空間の庭をお楽しみ頂けたと思います。（9月14日、福田治）

柳津から横浜へ

原三溪市民研究会の皆さんが、三溪翁生誕地、岐阜・柳津町佐波などゆかりの地を訪ねる一泊二日のツアーで来岐されたのはもう2年前の2011年9月のことでした。横浜では殆どの方が三溪園はご存知で一度は訪れる名所ですが、岐阜の皆さんは、三溪翁が岐阜の出身であり、どんな人物か地元の方でも殆どご存知ない方ばかりです。そこでこのツアー・交流会を機に、地元、柳津町地域振興協議会（会長広瀬昇・元柳津町長）を中心に「原三溪・柳津文化の里構想実行委員会」が2012年4月に発足し、“原三溪を知ろう、原三溪に学ぼう”と原三溪顕彰講座、発足記念講演会などを実施してきました。

今年度の事業の一つとして「三溪園研修ツアー」を企画しました。原三溪市民研究会廣島会長、藤嶋事務局長はじめ多くの会員の皆様と交流を深めることができました。

7月28日（日）7時15分に岐阜を出発し、東名高速道路経由で、ほぼ定刻通り午後1時30分すぎ、市民研究会の皆様のお出迎えのなか、無事原家野毛山別邸跡に到着しました。その後、市民研究会の皆様にご案内いただき、三溪翁ゆかりの場所を見学いたしました。夜の、中華街「招福門」での交流会には、岐阜から41名、市民研究会から21名の参加者で、元早稲田大学副総長村上義紀先生の講演や、三溪翁の郷里をうたった漢詩を廣島会長が吟じ、岐阜の三浦さんが尺八を演奏するなど和やかな雰囲気約3時間の交流会はお開きとなりました。岐阜のメンバーは、ホテルニューグランドに宿泊しました。

翌日はあいにく雨模様の天候でしたが、午前には、三溪園参事川幡留司様、三溪園のボランティアガイドも務める廣島、福田、別府、片岩様他市民研究会の皆様のご解説で、三溪園の鶴翔閣・白雲邸・臨春閣の内部を特別に見学させていただき、感激した至福のひと時でした。市民研究会の皆様とは午前でお別れしましたが、2日間にわたる実施に、事前準備を含め大変ご尽力ご労苦に対し、熱く御礼と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

午後は、隣花苑でグルメ通であった三溪翁を偲びながら三溪そばなど美味しいメニューをいただき、4時頃隣花苑を出発し、東名高速道路経由、雨の降りしき中10時過ぎ無事岐阜・柳津に帰着しました。一泊二日のツアーは、盛り沢山の内容で充実し、参加者は横浜で活躍した三溪翁に少しでも近づくことができたと感じました。（9月16日、尾関孝彦）